



題字 井口 文章
再刊 第239号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2017

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：近づく錦城祭！各企画の意気込みは？
東村山に落ちたB29爆撃機
二面：小平とフルーベリーの意外な関係とは
みやぎ総文特集 ②「巨理町」

ラストパート！台風も吹き飛ばせ！！

近づく錦城祭 本番まで残り2日

錦城祭まで残すところあと2日。各クラス、部活などでの準備もいよいよ大詰めだ。それぞれ夏休み前からの準備を進め、試行錯誤している。当日にむけて見えた見え方がある企画になると期待が高まる。

細部までこだわる演劇

正規と男女逆転の2通りで「ピーターパン」を上演する。現在は放課後にほぼ毎日練習を行っている。大道具などもオトジュリエットと同様に、



いよいよあと2日！クラスみんなで輪になってレンガの外装に取り組む2L。開催日には台風の予報もあるが、各クラス負けずに準備に力を入れていこう。

去年の失敗を生かして作成し、完成は間近だそう。美術系の伊藤千穂さんは、外装や大道具全てにおいて細部までこだわっている。クラシック映画委員の土田裕己くんは「本番までにもっと面白い要素を盛り込んでいきたい」と話す。



オリジナルモンスター製作中

図書委員 明大図書館&古本街巡り

8月30日水、図書委員6人が明治大学の図書館と神保町古書店街へ行った。図書委員長の中森美月さん(2B)によると、図書委員は毎年、本に関する場所を見学している。今年訪れた明治大学の図書館は、蔵書122万冊の広々とした開放感のある空間だったという。「普通の図書館ではジャンル別に並んでいる



神保町の一隅にある古書店

明治大学の近くにある神保町古書店街では通りに並ぶ古書店を見て回った。「古書店に行くのが初めてでも、明るくて入りやすかった。日差しを避けるため本が北向きに並んでいるという工夫を知れました」と振り返る。

本の寄付を募集中！

図書委員会では現在錦城祭の古本市で売る本を生徒の皆さんからも募集しています。漫画でも小説でも何でもOK！1冊からでも大丈夫です。9月15日頃までに各クラスの図書委員か図書室の司書へお渡しください！



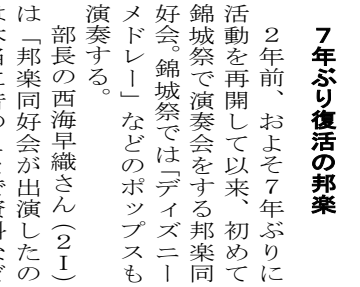
本番さながらに箏を奏でる

「我ら時を旅する合唱団」有志団体による合唱が錦城祭一日目10曲、二日目は4曲、多目的ホールで行われる。稲井清伽さん(2B)が合唱



ピーターパンの2人

女逆転では戦闘シーンに注目して両方見てほしい」と太鼓判を押した。特別メニューも準備中



本番さながらに箏を奏でる

今年度の錦城祭ポスターのイラストを担当した林里奈さん(2J)と森岡佑季さん(2J)の共同制作

錦城祭に新たな風を運ぶ新企画

7年ぶり復活の邦楽

2年前、およそ7年ぶりに活動を再開して以来、初めて錦城祭で演奏会をする邦楽同好会、錦城祭では「ディズニードレ」などのポップスも演奏する。



真剣な様子で合唱の練習

「我ら時を旅する合唱団」有志団体による合唱が錦城祭一日目10曲、二日目は4曲、多目的ホールで行われる。稲井清伽さん(2B)が合唱

生物部に新たな命 5匹のデグー生まれる

8月24日(木)生物部で5匹のデグーの赤ちゃんが生まれた。デグーは齧歯目、ヤマアラシ亜目のデグー科に属し、見た目はネズミに似ている、人に懐きやすい動物だ。部長



可愛らしいデグーに部員は夢中だ。(泰)

の山崎美世さん(2H)に話を聞くと、毛の色は通常茶色だが、うち2匹は珍しいブルーだったそう。集団で行動する動物なのでケージから出して遊ばせているが、刺激を与えないように優しく触ることに徹しているそう。とにかく可愛いデグーに部員は夢中だ。(泰)

映研新作取材中 地元にもあったB29の話

太平洋戦争末期の1945年4月2日、日本軍の高射砲から撃った弾が直撃したB29(アメリカ軍の爆撃機)が



紙芝居を実際に見せてもらう

文さんについて作品を作った。映研は8月23日(水)、と語った。歴史館で戦争展示を担当する松崎さんは、身近なところ化係の松崎さんに取材に戦争の足跡があるという。高校生には、教科書で学ぶ勉強だけでなく、「自分でしか知りえない生の情報を、生きていくうちに聞いて学んでもらいたい」と思っています。また多面的な視野で戦争を俯瞰して、平和の大切さを感じてもらいたい」と話して

むらさき草

多くの人は子どもの頃に田んぼや池でオタマジャクシを見た経験があるだろう。オタマジャクシは1ヶ月ほどするとカエルになる。成長を辿ると、約3週間間でまず後ろ足が生えて次に前足が生え、その後尻尾がなくなる。カエルの祖先は古生代に出現したそう。驚いたことに、カエルには人間と同じような位置に耳がある。さらにカエルは人間を特徴づける飛び出した目もくぼませることが出来る。3年ほど前の春、夜中に庭にあるメダカ用の水槽のそばでオスのヒキガエルが集まって鳴いているのを見た。その後メスも来て産卵し、透明の長い紐状になっている管に入った卵から、一週間位でオタマジャクシが生まれた。カエルになると岩の上を元気にジャンプしたり、左右の手足を互いに押し出したりしながら歩く姿が見られた。皮膚がツルツル・プツプツしている、鮮やかな模様が美しい。淡い単色、ギョロとした目、小さな目など、カエルは種類によって外見が様々だ。水辺だけでなく砂漠や荒野に住んでいるものもある。南米のソバージュネコガエルは、乾季にワックス状の分泌液を出して四肢で身体を保護するための工夫をしている。彼らは、乾燥に弱い身体を保護するための工夫をしているのである。またカエルは非常に綺麗なため、昔から専用の水盆や籠に入れて鳴き声を楽しんでいた。カエルが苦手な人も一度生物部に見に行ってみて色んな面を知り、「カエルは気持ち悪い」という見方を変えてみてはどうか。

【特集】知ってる?ブルーベリー発祥の地

ブランド化へ小平の取り組み

ここ錦城高校があるの言うまでもなく小平市。みなさんは小平といえ何を思い浮かべるだろうか。実は、あの人気の果物ブルーベリーを最初に栽培したのは小平なのだ。今回はその小平とブルーベリーの関係について迫って見た。

(編集部1年共同取材)

ブルーベリーが日本に知れ渡るまで

ブルーベリーをアメリカから輸入し、研究を行っていた。小平市花小金井南町にある教子の実家に、昭和43年ブルーベリーの木が植えられ栽培が始まったが、当時日本では馴染みがなく、販売するにも苦労したという。

昭和50年に大手メーカーがジャムの販売を開始したこ



マスコットキャラクターとしてブルーベリーまつりにも顔を出すぶるべー

第12回「ブルーベリーまつり」開催

子供から大人まで大盛況

8月5日(土)に花小金井駅北口前広場で開催された、小平市と小平ブルーベリー協議会主催の第12回小平ブルーベリーまつり。祭りでは生のブルーベリーを使ったワインが大好きで、祭りを楽しく販売し、小平市のマスコットキャラクター、ぶるべーも登場して賑わいを見せていた。ブルーベリー調査と関連し、祭りに来ていた人への



祭りではブルーベリーの商品がずらりと並んだ

帰省中に子供と2人で来た女性、実家でもブルーベリーを育てているそう。小平がブルーベリー発祥の地という事は知っていた。時間があればまつりにもまた来たいと話した。

ブルーベリーのワインを販売していた小平酒商組合。組合長の土方茂雄さんは、出店するの10回目だそうだ。



身がはち切れそうなほど大きく軸の色固いたものが食べごろ

振興を目指している。協議会はブルーベリーの地域ブランド化の研究、PR、ブルーベリーまつりの開催も行っている。同じ年にシンボルマーク「ぶるべー」の愛称が決定し、

小川さんが経営する小川農園では、ブルーベリーの摘み取り体験を行っている。この農園に来る客層は市内の人が8割、他2割は多くが周辺の市から来る人だそうだ。



「ブランド化が必要」と語る農家の小川さん

は、やはりブランド化が必要となってくる」と小川さんは語る。

また、ブルーベリーを通じて小平市の観光地化に力を入れている。「日本で最初にブルーベリーが栽培された地」を生かして小平市はブルーベリーをブランド化し、その甲斐

1年後の平成21年にゆるキャラのぶるべーが登場した。ブランド化が必要

小平におけるブルーベリー栽培についてより詳しく聞くため、農家の小川裕明さんを尋ねた。

ブルーベリーは雨だけでも育ち、農薬も使う必要がないという。肥料も少量で済み、育てやすいので全国的にも生産量が増えているそうだ。今ではどちらかといえば飽和状態。「その中で定着させるに

愛されるマスコットぶるべー

小平市のマスコットとして、「ぶるべー」というキャラクターがいる。彼は、平成18年に小平市内の武蔵野美術大学の学生によってデザインされた。紫色のブルーベリーの形をした顔に、つぶらな瞳、ペロリと舌を出した大きな口が特徴の、愛らしいデザインだ。この「ぶるべー」という名前は、小平市民の公募によるもので、「ブルーベリー」と「小平」の「平」の文字



小平産ブルーベリーを使った人気の和菓子

をかけ合わせてきた。ぶるべーくんは小平ブルーベリーまつりなどのイベントに出現したり、ぬいぐるみなどのグッズとして販売されたりと、いろいろな形で小平産ブルーベリーをPRしている。

市役所の一角にもぶるべーくん

あまり広くないという。小平のブルーベリーの圃場面積は652アール(1アールは100平方メートル)に対し、近くにある国分寺市は732アール。八王子市、町田市、江戸川区に比べては1000アールを優に超える。日本はアメリカやカナダなどからの輸入も非常に多く、小平産ブルーベリーを全国に広めるのは非常に難しいのが今日の現状だ。小平市はこの現状に対し、

地産地消やブルーベリーを通じて小平の観光地化に力を入れ、他の地域に負けない工夫をしている。

地産地消について、小平市は直売所の活用を精励している。小平は、住宅の多い人口過密地域でもある。そのため、直売の購入率が高く、新鮮な果実を多くの人が入れることができる他、地域との強

「ブランド化が必要」と語る農家の小川さん

また、ブルーベリーを通じて小平市の観光地化に力を入れている。「日本で最初にブルーベリーが栽培された地」を生かして小平市はブルーベリーをブランド化し、その甲斐

みやぎ総文特集「あの日から6年半」②

海が見える商店街、復興までの道のり

237号で取り上げたみやぎ総文特集。予告したとおり、今回からは全5回にわたって震災関連の話題をお送りする。



新しく丈夫に再建された商店街

宮城県南部の太平洋に面する亶理町は周囲を海や田んぼに囲まれ、魚介類やイチゴが有名。ここでは荒浜にぎわい回廊商店街」に取材した。お店

「わたり温泉海の鳥の1階に魚介類や惣菜を売っていたという。東日本大震災で町はほぼ壊滅。6mの津波。いつか宮城沖に津波が来ると言われ



「もっとイベントを催して亶理町に呼び込みたい」と菊地さん

「これからは亶理を発信していかないとけない」と菊地さん。「商店街を開くやりにはいらぬ人々との出会い。前向きに販売。前向きに復興」と話す。「はらこ飯を食べ、温泉に、イチゴを味わい、自慢の海をみよきてください。来年には海水浴場も再建するぞうだ。」

(次回は特集③七ヶ浜をお送りします)(藤)

解決のカギはブランド化

調査の中では、農地や後継者の減少など様々な課題も見えてきた。こうした問題を解決するため、市はブランド化を進めている。

市役所の鎌田さんは錦城生へ「小平の応援団になってください」と話した。小平とブルーベリーの歴史は深く、ブルーベリーは小平と密接に結びついてきた。もし興味をもったら身近な直売所などに訪れてほしい。

錦城高校新聞では過去にも、小平のブルーベリーについて取り上げています(右参照)。過去の記事は錦城高校のホームページや図書館で読むことができます。

～過去のブルーベリー関連の記事まとめ～

第114号 小平あっちこっち=9=ブルーベリー栽培に至った経緯、農園への取材

第145号 こだいらブランドの「ベリベリぶるべりこだプリン」の紹介 開発者の嘉悦大学の生徒や販売者へのインタビュー

第149号 洋菓子店「ル・パティシエ クニヒロ」への取材 ブルーベリー商品開発までの経緯

第188号 西武鉄道のラッピング電車「ぶるべー号」紹介

第194号 こだいらブランドの商品がわかる「小平の特産品カタログ」取材

大会報告

弓道部 8月23日(水) 東京都個人選手権大会 玉井颯利(1) 決勝進出

ソフトボール部 9月3日(日) 小平市民大会優勝

野球部 9月9日(土) 平成29年度秋季東京都高等学校野球大会1次予選2回戦進出

生徒会動静

9月1日～9月12日

錦城祭実行委員会 後夜祭実行委員 常時活動中

9月7日 体育学芸委員会

9月11日 図書委員会

9月12日 合唱祭実行委員会